



(小倉)

果、小倉城二ノ丸の北西隅部、三ノ丸との間の堀、及び堀に架かった土橋から桜町口門への通路、及び櫓の礎石、井戸二基が検出された。

木簡は、第一面B区の井戸から一点出土した。井戸は掘形の径3m内径80cm深さ4m以上を測り、壁側は礫積みである。安全確保のため、掘り下げは標高マ

福岡・小倉城 桜町口門跡

こくらじょうさくらまちぐちもん

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉北区大門一丁目
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15)九月～二〇〇四年一月
- 3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室
- 4 調査担当者 山口信義・田村和裕・下田智隆
- 5 遺跡の種類 城郭跡(二ノ丸)
- 6 遺跡の年代 中世末期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今回の調査は地方主要道の拡幅工事に伴うものである。調査の結果、小倉城二ノ丸の北西隅部、三ノ丸との間の堀、及び堀に架かった土橋から桜町口門への通路、及び櫓の礎石、井戸二基が検出された。

イナス一・三mまで行なって中止した。

井戸内覆土からは、陶磁器、瓦、獣骨が出土した。陶磁器には幕末～明治時代以降の人工コバルト釉紙型刷りの文様の破片があり、瓦には棧瓦を含む。

8 木簡の釈文・内容

(1) []

200×(16)×3 081

上下両端は丸味を帯びる。左辺は折損している。

9 関係文献

(財)北九州市芸術文化振興財団『小倉城桜町口門跡・大門遺跡』(北九州市埋蔵文化財調査報告書三七〇、二〇〇七年)

(山口信義)

